

ISW、Babel Streetを活用して 中国軍幹部の粛清を調査

2023年以来、中国共産党は軍幹部や軍事産業幹部に対する反腐敗運動を実施してきましたが、粛清は2024年後半から激化の一途を辿っています。戦争研究所（ISW：Institute for the Study of War）は、あまり知られていない標的を特定し、これらの活動について理解を深めることで、近日発表予定の報告書にまとめたいと考えていました。

ISWは、信頼できるリサーチや信用ある分析、革新的な教育を通じて、軍事問題に対する情報に基づいた理解を深めることを目指しています。そして、米国の戦略的目標を達成するために、軍事作戦を遂行し、国家としての新たな脅威に対応する能力の向上に取り組んでいます。ISWは超党派の非営利公共政策研究機関です。

ISWは、世界中で公開されている膨大な数のデータ情報源から独自のインサイトを多言語で幅広く引き出すBabel Street Insightsを活用してきました。中国共産党の取り組みに関するこの研究に加え、ISWはInsightsを使用して、金門島周辺の台湾海域への中国の侵入を調査したり、あるいはハマスの戦闘序列を構築し、またある時はウクライナにおけるロシアの兵力を把握してきました。

課題

2023年以降中国共産党は、2人の国防相、人民解放軍ロケット軍司令官、中央軍事委員会（CMC）トップの政治委員、そして最も重要なCMCの2人の副主席のうちの1人を含む、複数の軍高官に対する粛清や調査を実施してきました¹。こうしてISWは、これらの事例がどのようにつながっているのか、舞台裏で何が起きているのかについて疑問を抱くようになりました。一部の粛清は、ロケット部隊の調達にまつわる実際の汚職に関連しているようでした。

ISWは、その他の粛清や調査が習近平への不忠やイデオロギー的な異端と関連している可能性があるかと評価しました。第三の仮説、あるいは並列的な説明として派閥政治があります。最近粛清の対象となった数人の幹部は、習近平に近い二大幹部グループの一つである福建閥に属していました。ISWが明らかにした人物の中には、あまり大きく報道されず、裏付けが取れていないものもありました。ISWは、粛清の対象となった高官を可能な限り多く特定して検証し、どのような傾向が見られるかを調べるプロジェクトを開始しました。

アプローチ

ISWは主にBabel Street Insightsを活用し、ニュースメディア、SNSプラットフォーム、ブログなどから公開されている情報を広範囲に検索しました。ISWは調査員および機関のセキュリティを確保するため、中国のウェブサイトへのアクセス時にInsights内の管理型アトリビューション機能であるSecure Accessを使用しました。これにより、アナリストは匿名のままで、国内から閲覧しているかのようにサイトを確認することができます。

中国共産党は粛清・懲戒処分を受けたとされる官僚の名前の多くを公表しておらず、むしろそのような報道は、民間ジャーナリスト、SNSの投稿、その他の非公式な中国の情報源からもたらされることが多かったのです。ブログやWeibo、その他の中国のSNSの投稿にアクセスできることで、ISWは詳細に調査する必要のある人物のリストを作成することができました。

Insightsでは、どのソースや著者（投稿者）を結果に表示させるかをユーザーがフィルタリングできるため、ISWの研究者は、キーワードを含んでいても目的とは関係のない結果を除外することで「ノイズ」を排除できます。また、アナリストは必要に応じて、中国の公式ソースだけを見るか、SNS情報源だけを見るかを選択できます。

公的な情報源を除外することで、ISWは、中国が逮捕、捜査、懲戒処分を受けたことを公に確認していない官僚・幹部の名前を見つけることができました。逆に言えば、特定の名前を検索する際に公式ソースのみを見ることで、粛清されたと噂される役人が、懲戒処分とされた時期以降に公の場に姿を現したかどうかを確認することができたのです。

例えば、人民解放軍東部戦区司令官の林向陽氏は、何か月も前から捜査対象になっていると噂されていたが（ただし真偽は未確認）、3月には公的行事に出席したものの（つまり、それ以前の粛清の噂は時期尚早）、それ以降は公の場に姿を現していません。

さらに、特定の日付パラメータを設定する機能を使って検索結果をフィルタリングすることもできます。複数の幹部が同時に逮捕されたり、処分されたりすることはよくありますが、国営メディアで報じられるのはそのうちの一部だけです。ISWは、何衛東・党中央軍事委員会副主席のような一人の幹部の逮捕日を知ることにより狭い日付範囲を設定し、その時期の投稿や記事を検索できるようになり、膨大な検索結果に埋もれてしまいがちな関係者を特定できました。

影響力

Babel Streetの専門的なOSINTツールがなければ、ISWは人民解放軍の粛清に関する既出の報告書に頼っていたでしょう。これらの報告書は、標準的な検索エンジンや、ISWが通常手作業で行っている収集プロセス（厳選されたニュースサイトや政府ウェブサイトを毎日閲覧）を通じて作成されています。

ISWの中国研究者であるダニエル・シャッツ氏は、「Babel Streetなしで調査を実施した場合、（他の英語の情報源がすでに発見した情報の繰り返しになるため）調査の独自性が薄れ、網羅性も低下していたでしょう。Babel Streetの検索アルゴリズムのお陰で、発見までにはるかに長い時間がかかったであろう新たな情報源が素早く得られ、これまでよりも短時間でより包括的な調査を行えるようになりました」と述べています。

Babel Streetは、信頼あるテクノロジーパートナーとして、世界最先端のアイデンティティインテリジェンスとリスク対策を実現します。Babel Street Insightsプラットフォームは、リスクと信頼のギャップを埋める高度なAIとデータ分析ソリューションを提供します。

Babel Streetは、言語を問わずにすぐに分析に使える最高レベルのデータを提供し、プロアクティブなリスク特定、多面的なインサイトの取得、高速自動処理、既存システムとのシームレスな連携を実現します。政府機関や企業が、身元の特定やリスクに関するハイリスクな業務を戦略的優位性に転換できるよう支援します。

詳しくは、babelstreet.jp をご覧ください。